



中野区立緑野中学校 学校便り

探求・創造・共生

令和4年2月24日(木) 発行

第10号

「負のスパイラルを断ち切る」

校長 齊藤 久

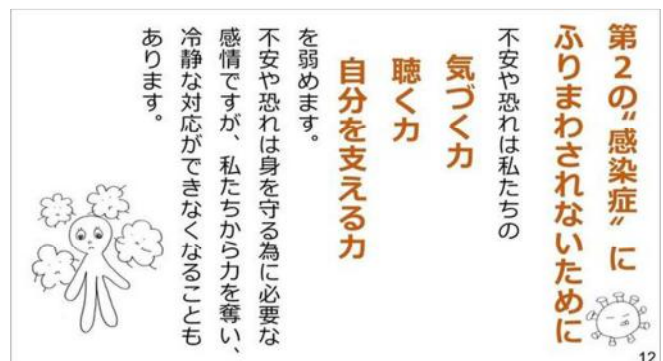
中国では北京オリンピックが開催され日本選手の活躍が連日伝えられました。ジャンプやスノーボードでの金メダルやその他のスケート種目などでもたくさんのメダルリストが誕生し日本に元気を届けてくれました。

先日、今大会は第4位だったフィギュアスケート「羽生 結弦選手」の記者会見が話題になりました。大会前日の練習で足首に怪我をして痛み止めの注射を打って出場したことは誰も知りませんでした。そのような状況の中で本番ではさらに氷上にできた溝に足をとられ、予定していた4回転アクセルができませんでした。不運な出来事が重なり、メダルが取れなかった原因として、アイスリンクの整備状態を批判する発言をしても当然だと思いました。しかし羽生選手は、考え方が負のスパイラルに陥ることなく、記者会見で「滑りやすく飛びやすい気持ちのいいリンクでした。」と整氷を担当した大会関係者へ感謝の気持ちを伝えました。次のオリンピックの参加について質問を受けると「怪我をしても立ち上がって挑戦すべき舞台は他にはないです。また滑ってみたい気持ちはあります。」など、どの質問にも明るく笑顔で答えていました。記者会見をする前は引退宣言するのではという予想に反して、**何事にもポジティブに前向きな発言をする羽生選手**はオリンピック連続金メダリストの風格さえ感じられました。

オミクロン株の急速拡大が続いています。人々が感染症を心配し過ぎて、負の思考のスパイラルに陥らないか心配です。日本赤十字社の「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」～**負のスパイラルを断ち切るために**～によれば、その3つの顔(①病気、②不安、③差別)は感染症でつながっており各自が意識をして気をつけなければウイルスは力を増していくと説明しています。

感染症に効く薬が完成したとの明るい報道があります。

感染症対策は今後も正しく恐れながら継続してまいりたいと思います。



研究発表会

授業風景の紹介



道徳 心を揺さぶられるもの

2月9日(水)に令和2・3年度 中野区教育委員会「学校教育向上事業」研究指定校の研究発表を行いました。本校では、研究主題を

『未来を創造するために必要な資質・能力を育む授業改善』

～主体的に取り組む態度の育成を目指して～

とし、① 指導と評価の一体化 ② ICTの効果的な活用

③ 教科横断的な指導の3つの柱を立て、2年間研究を進めてきました。当日は、② ICTの効果的な活用の発表として、英語・理科・家庭科・特別の教科 道徳 ③ 教科横断的な指導の発表として 社会科・国語科と美術科の授業を公開しました。どの授業でも生徒が生き生きとして、主体的に取り組んでいました。研究の成果が毎日の授業にいかされています。



家庭 生活情報の活用



英語 TGG チャレンジ



理科 混合物の分離



社会 明治時代の文化



国語 君は最後の晩餐を知っているか？



1年 キャリア学習

「今、学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えよう。将来、誰のためにどんなことをしてみたいのか考え、そのために今、自分が学びたいことを書こう。」という課題に取り組みました。

○パテシェ。どんな職業でもコミュニケーション能力が必要だと思うので、色んな人(他の国の人もふくめ)と会話をし、相手側になって考えてみる。そのためには、他国の言語も理解できるよう勉強をする。スイーツを売るときなどは、笑顔で対応できるように、今は家族や友達に食べてもらったりして練習する。

○災害で困っている人たちのために、学者になって地震の予知などに従事したい。そのために大学に入って研究をしたい。

校内作品展

2月12日・14日

美術科



技術科

家庭科



1年校外学習



2年校外学習



3年修学旅行



1年 英語科



保健体育科 オリンピック・パラリンピック新聞

